

BCJ-SAR

ISO だより
Vol.42



一般財団法人日本建築センター
The Building Center of Japan

システム審査部発行

〒101-8986 東京都千代田区神田錦町 1-9

TEL 03-5283-0476

FAX 03-5281-2827

ホームページ <http://www.bcj.or.jp>

Eメール sinsa@bcj.or.jp

ISOだよりの所有権はシステム審査部に帰属します

我が社のISO(その34)



松清産業株式会社
総務部長
阿瀬知 幸宏

「スムーズなISOの運用を目指して」
QMS・EMS・OH&S MSの一本化

当社がISOを導入したのは、2000年6月に品質マネジメントシステム、2007年12月に環境マネジメントシステム、昨年の2015年3月に日本建築センター第1号として労働安全衛生マネジメントシステムの認証を頂きました。

認証してからも、書類の多さ、二重化等ISOの為の書類を作成しないといけない状況が続き、社内ISO教育、外部教育等を重ね社員全員で取り組みながら、約14年間かけて松清産業(株)にあったISOを作ってきました。そのうえで、労働安全衛生マネジメントシステム(OH&SMS)の導入にあたっては、今まで以上にISOの書類が増える事等があり、一時断念した時期もありましたが、再度検討し当社は、建設業で安全第一、安全最優先であり、労働安全衛生に取り組むのは当然となり、導入の決定をしました。運用開

始後は、外部講師にお手伝い頂きながらマニュアル作成が始まりました。

建設業なので労働安全については、今までも施工現場では、教育訓練を通して安全対策は実施していましたが、事務所の安全対策、安全訓練等をどのように実施するか、何をどうするかを検討し続け、現場は現場の安全対策があるように、事務所は事務所の安全衛生がある事に気づき、マニュアル第1版が2014年9月1日に完成しました。

運用については、品質、環境とは違い大体の事は、今までしていた事を労働安全衛生システムに従って運用し、その他についても品質、環境同様、社員全員で教育訓練を行い、スムーズな運用が出来るようマニュアル改訂を行いながら運用しています。

現在は品質、環境、労働安全の3つがそれぞれのシステムで運用している状況ですが、今後2017年度までには、2015年規格改正に伴い、2015年版への変更と同時にシステムの1本化を目指して、顧客の満足していただける構造物の提供を目指し運用していきたいと考えております。

松清産業株式会社

1955年 創業

主な事業内容：土木構造物の施工

所在地：鹿児島県



審査員の日(その38)

新井 俊昌
システム審査部 登録審査員
JRCA/CEAR/OH&SMS登録主任審査員

「品質マネジメントシステムの活かし方」

2015年の9月15日にQMS、EMSの改正された規格が発行され、この改正新規格に対応したマネジメントシステムへの移行に各企業の担当者様は頭を痛めていることとお察しします。また、我々審査員も改正規格に対応した審査をするために、システム審査部で行われる研修会に出席して日夜精進しているところです。

さて今回の規格改正の作業において、日本からは、箇条7.1.6の「組織の知識」及び箇条と8.5.1のg)項に出てくるヒューマンエラーの防止の二つを提案したそうです。

先日、QMSの改正作業に携わり国際会議に参加したTC176メンバーの方と話をする機会があったので、日本から提案した経緯について尋ねてみました。

その中で「組織の知識」については日本からの提案もあったが、規格改正に際して検討された将来考慮すべき18の品質マネジメント概念の中にある「ナレッジマネジメント」(注：ナレッジマネジメントとは、個人の持つ知識や情報を組織全体で共有し、有効に活用することで業績を上げようという経営手法(IT用語辞典より))の手法を受けて要求事項に盛り込まれた経緯があったようです。

昨今の建設業界では高齢化が進み、固有技術の継承をどのように次世代へつなげていくかが今後の課題であり、その課題を解決する方法を考えていく上でこの「組織の知識」のプロセスを活用して頂くことも一つの方法であると思われます。

また、ヒューマンエラーの防止については、規格改正の分科会に出席している航空宇宙の品質規格の関係者からもQM

Sの要求事項に入れるように意見が出て、これが盛り込まれる運びになったと言っていました。

航空宇宙の機器に関する不具合や、整備上の不具合がヒューマンエラーによる原因で発生することがあります。さらに医療機関でもヒューマンエラーによる不適合の発生が、患者さんの命に関わることもあり切実な問題となっています。実際の審査現場でもヒューマンエラーによる不適合製品の発生により顧客からの発注制限を掛けられるケースがあると聞いています。

また、2008年版の6.4項にある作業環境(2015年版では7.1.4のプロセスの運用に関する環境)との関連があり、人に与える影響を考慮して不具合の発生防止に繋げるのも一つの方法ではないかと考えられます。

日本から提案したこの二つの要求事項は、製品やサービスを提供する際に対応が必要です。実際の製造現場では何らなの活動を行っていることもありますので、その活動を見付け出して上手くシステム化を図りたいものです。



労働安全衛生マネジメントシステム 認証業務のお知らせ

一般財団法人 日本建築センター システム審査部（BCJ-SAR）では、品質マネジメントシステム認証業務及び環境マネジメントシステム認証業務に加え、2014年10月より労働安全衛生マネジメントシステム認証業務を開始しております。

◆認証取得にあたって

認証の手続き等については、既に品質マネジメントシステム及び環境マネジメントシステム認証業務でご経験のある認証取得と同様の手順で実施いたします。

◆認証に係る料金について

既にBCJ-SARにて品質マネジメントシステムや環境マネジメントシステム、またはその両方を認証取得されている組織様には、認証に係る料金については特別価格とさせていただきます。

◆認証登録組織のご紹介(2016. 3. 1 現在)

OHS-0001 松清産業株式会社【鹿児島県】
土木構造物の施工

OHS-0002 株式会社 加覧組【鹿児島県】
土木構築物の施工

OHS-0003 株式会社 文元建設【鹿児島県】
土木構造物の施工

OHS-0004 有限会社 徳田組【三重県】
土木構造物の施工

OHS-0005 株式会社 岸本組【佐賀県】
建築物の設計、工事監理及び施工
土木構造物の設計及び施工
不動産の管理及び販売

OHS-0006 株式会社 新津組【長野県】
建築物の設計、工事監理及び施工
土木構造物の設計及び施工

労働安全衛生マネジメントシステムの認証取得をお考えの組織様におかれましては、是非お気軽にお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

一般財団法人 日本建築センター
システム審査部
担当：梅澤、山貝
TEL：03-5283-0476
FAX：03-5281-2827

■ 2016年度認証判定会議の日程は下記のとおりです ■

品質、環境、労働安全衛生とも同日開催です。

当センター（東京都千代田区）にて開催致します。

2016年（平成28年）	
4月27日（水）	13:30～
5月25日（水）	13:30～
6月22日（水）	13:30～
7月27日（水）	13:30～
8月23日（火）	13:30～
9月28日（水）	13:30～
10月26日（水）	13:30～
11月22日（火）	13:30～
12月21日（水）	13:30～
2017年（平成29年）	
1月25日（水）	13:30～
2月22日（水）	13:30～
3月22日（水）	13:30～

■再認証を迎える組織の皆様へ■

審査時期によっては、審査が混み合う事が予想されますので、余裕をもってマネジメントシステム認証申請書（品質／環境／労働安全衛生）をご提出いただきますようお願いいたします。（マネジメントシステム認証申請書の他に「マネジメントシステム認証申請者調査表」のご提出が必要になります。）申請書及び調査表は、一般財団法人 日本建築センターホームページよりダウンロードできます。
(<http://www.bcj.or.jp>)



編集後記

平成 27 年 11 月 20 日に JIS Q 9001 及び JIS Q14001 の 2015 年版が正式発行されました。

システム審査部では、認証組織の皆さまに、現行規格から 2015 年の新規格にスムーズに移行して頂けるよう、できる限りのサポートをさせていただきます。

規格の解釈がよくわからない、どのように移行の準備を進めたらよいかわからない等、何かお困りのこと等がございましたら、お気軽にご相談下さい。

